小田原史談

第278号
発行所　小田原史談会
小田原市南町 2-1-34
電話　TEL 23 [illegible]

講演録

小田原藩の二宮尊徳登用と仕法「畳置」

（講師）松尾　公就（立正大学非常勤講師）

年貢の研究からスタート

ただ今ご紹介していただきました松尾と申します。

学生時代私は江戸時代の年貢のことを勉強してきました。年貢となりますと数値が出てきます。えらく面倒くさいのです。ほとんどやる人がいませんでした。また、年貢の徴収ということになりますと、これまたいろいろと複雑でございます。今日のテーマから離れてしまいますので詳しくは述べませんが、「胡麻の油と百姓は絞れば絞るほど出るものなり」と言った者がいます（「百姓」は差別用語、今は使わない）。

「神尾」と書いて「カンオ」と読むのですが、江戸時代の勘定奉行だった人です。皆様も御存知の、八代将軍の吉宗の終わりの頃に勘定奉行だったのが、神尾春央（カンオハルヒデ）という男です。これが「胡麻の油と百姓は絞れば絞るほど出るものなり」と言うふうに言ったといわれる人物です。彼の年貢徴収のことを勉強してきました。江戸時代の中で幕府の年貢量が一番高かったと言われています。吉宗はいろいろと言われますが、吉宗の頃に江戸時代の年貢は一番高かったわけです。

この神尾春央というのは、今までの年貢の取り方とか、既成のやり方というものを、幕府領においては根本的に変えていくわけです。「有毛検見取法（アリゲケミドリホウ）」という今までほとんど使われてこなかった徴収法でもって年貢を上げていきます。非常に厳しい年貢の取り立てだということで、悪評高き勘定奉行でございます。でもこれを逆から見たら、幕府の側から見ると、財政再建のためにはうってつけの勘定奉行だったわけです。吉宗の側にしてみると、今までの既成事実にとらわれないで財政再建に貢献していくという非常に有能な勘定奉行だったとも言えるのです。でも、そういうふうに書いてある書物はございません。悪評は書いてありますが。

これが最初に研究した年貢のことです。

二宮金治郎との出会い

小田原に来まして尊徳のことを、尊徳というより金治郎ですが、金治郎のことを扱うようになりました。

金治郎が立て直しをいろいろやると年貢が下がると書いてあ

二百七十八号（令和六年七月号）

目次

講演録
小田原藩の二宮尊徳登用と仕法「畳置」
（講師）松尾　公就……1
祖父橋本九市
―小田原に進出した近江商人―
話し手　橋本　槇雄……15
○っと近たび
かんなみ仏の里をめぐる
荒河　純……20
青物町シリーズ3
青物町に根を下ろしたカメラ屋さん
話し手　荒井　秀夫……23
スケッチ川柳
宍戸　忠夫……27
史談再録（第二二五号）
二宮尊徳と表彰
勝俣　淳一郎……28
二〇二四年度年次総会議案書……29
秋の史跡巡りのお誘い
甲州街道をバスで巡る（第2弾）……19
新入会員、会員募集……19
賛助会員、落穂集……32

賛助会員

創業明治36年
相原興業株式会社
TEL 34-8322

株式会社 鮑屋
TEL 22-5185

伊豆箱根バス株式会社
神奈川旅行センターTEL 23-0266

小田原 江嶋
TEL 22-1661

（株）オクツ薬局
TEL 090-3215-2001

小田原ガス
TEL 34-6101

小田原報徳自動車
TEL 22-4155

かまぼこ 籠清
TEL 22-0251

かみやま小児科クリニック
TEL 24-0188

KSK　㊥印そば粉製造本舗
久津間製粉株式会社
TEL 0120-34-1157

COMTEC コムテック株式会社
TEL 22-4214

さがみ信用金庫
TEL 22-3121

杉崎茂法律事務所
TEL 24-1860

ちんぎょう本店
TEL 22-4951

割烹料理 うなぎ 鳥かつ楼
TEL 22-2078

（株）ナック中村屋
TEL 24-2211

株式会社 ハシモト
TEL 37-8011

平井書店
TEL 22-5370

株式会社 報徳
TEL 34-5151

税理士法人 報徳会計
TEL 23-2171

報徳二宮神社
TEL 22-2250

建築金物 家庭金物 （株）星崎仲吉商店
TEL 34-2718

（株）ヤオマサハウジング
TEL 34-3232

小田原史談会ホームページ　URL; https://www.odawara-shidan.com/

小田原史談（年四回発行）
創刊　昭和三十六年一月
会創立　昭和三十年七月

禁無断転載

年会費　普通会員三千円
振替　〇〇二二〇―三―六四三三六
小田原史談会

落穂集

▼外山滋比古「『読み』の整理学」（ちくま文庫）は示唆に富んでいた。読み方には、知っていることを読む「アルファ読み」と、未経験のことを読む「ベータ読み」があって、読書はアルファとベータの比率で平明と難解が決まる。この頃はベータ読みが忌避される傾向にあり、アルファのみで文章を構成しようとする。AIもアルファ化への強力なアシストである。難解な哲学書を何度も読んだり、辞書を引きながら外国語を翻訳したり、意味も分からず「平家物語」を暗誦したりというベータ読みの典型は消えつつあるが、こういう行為は本当に無駄だったのだろうか？　▼今号は松尾公就さんの総会時の講演録を一挙掲載した。小田原藩で尊徳仕法が「畳置」になるまでの経緯を詳しく解説いただいた。いくつかの行き違いに加えて、忠真が重用した人材を排除する権力闘争が重なったのが「畳置」の理由であると述べられている。かつて、平倉正さん（元本会会長）はこの問題に一歩踏み込んで、尊徳の「民」が「君」に優先するという思想が結局、藩の支配体制を揺るがしかねないと危惧した藩重臣による政治的判断であったと推論されている（本誌二二五号）。小田原の生んだ偉人である尊徳の実像については、今後も追究して行きたい。（編集子）

「小田原史談」原稿募集

論考・紀行・証言等の原稿をお待ちしております。

[illegible]